



東京染小紋

[とうきょうそめこもん]

Tokyo Fine-Patterned Dyeing

●主な製造地

新宿区、世田谷区、練馬区ほか

●指定年月日

昭和57年12月24日

昭和51年6月2日(国)

●伝統的な技術・技法

1. 色彩及び図柄は、小紋調とする。
2. 型紙は、柿渋を用いて手漉和紙をはり合わせた地紙又はこれと同等の地紙に彫刻したものとする。
3. 型付けは、手作業により柄合わせする。
4. 地染めは、引き染め又はしごきとする。
5. 捺染糊は、もち米粉に米ぬか及び食塩等を混ぜ合わせたものとする。

●伝統的に使用されてきた原材料

絹織物



●沿革と特徴

武士の江戸城内の公式の礼装着となった、^{かみしも}袴に、黒や、茶、藍といった渋めの色で細かな小紋柄が使われました。

時代は次第に商人の時代となり、形式的な武士の小紋に対し、自由に洒落た柄を江戸の商人が着始め、黒や色無地に次ぐ男性の略服として用いられ、次第に女性の衣類としても浸透して行きました。このような広がりの中、江戸時代の後半には幾何学文様、草花、動物、昆虫、風物、道具…などなどそのバリエーションと多様性は増して行き、現在に受け継がれました。

連絡先

●産地組合名／東京都染色工業協同組合

●所在地／〒169-0051 新宿区西早稲田3-20-12 ●TEL／03-3208-1521

●ホームページ／<http://www.tokyo-senshoku.com/>

